



グラデュエーション・ポリシー

(育成を目指す資質・能力に関する方針)

1 福祉・介護の専門的な知識と技術に基づき、状況に応じた介護を実践できる人

福祉・介護の現場には、認知症のある方や医療的ニーズの高い方など様々な方がいます。そのため、対象者一人一人に必要な介護は何かを介護者自身が常に考えて実践する必要があります。

福祉・介護の専門的な知識・技術の習得に留まらず、身に付けた知識・技術をどの場面でどのように活かしていくかを考えることができる人材を育成します。



2 互いの価値観を認め、相手の立場に立って考えられる人

人は一人一人、顔や性格と同じように価値観も異なります。自分の価値観を他者に押し付けるのではなく、お互いの価値観を認め合うところから、人間関係がスタートします。

また、他者の価値観を知るだけでなく、自分の感じ方や考え方の傾向を知ることも大切です。

相手の気持ちを汲み取り物事を考えることができるなど、一人の人間として大切な心を育みます。



3 多様な人と関わるためのコミュニケーション方法を身に付け、実践できる人

高齢者や障害のある方だけでなく、そのご家族や地域の方など様々な方と関わり信頼関係を築いていくことができるよう、コミュニケーションの実践力を育成します。

4 福祉・介護の専門職として、課題解決に向けて他者と協働できる人

福祉・介護の現場では、看護師やリハビリ職など他職種とチームを組んで業務を進めています。チームの一員として他者と協働するためのスキルを育成します。

5 地域に貢献しようとする強い意志を持ち続けることができる人

福祉科での3年間の学びは、福祉・介護分野に限らず、私たちが普段生活をしている地域生活にも役立つものです。

卒業後も、福祉の学びを生かして地域のため、社会のために貢献しようとする意志をもち、行動できる人を育てます。





カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成及び実施に関する方針)

1

個に応じた指導を行い、全員の介護福祉士
国家資格取得を目指します

福祉科では、介護福祉士国家試験の合格を目標に日々学習に励んでいます。

福祉科目は一年次より単元テストを導入し、こまめに学習の振り返りを行うことで学習の定着率を高めます。また、生徒一人一人の得意科目・苦手科目を分析し、個に応じた指導を行ったり、タブレット端末などのICTを積極的に活用したりするなど、国家試験対策指導にも力を入れています。

2

「課題解決型学習」を推進し、課題解決能力や協働的態度を育成します

不確実な事柄が多く将来を予測することが困難な「VUCA(ブーカ)」と呼ばれる現代において、答えのない問いに向かい課題解決へのアプローチ方法を身に付けることは不可欠です。福祉科目においても生徒が自ら地域の福祉課題などを見つけ、その課題を解決する力を身に付ける、「課題解決型学習」を進め、課題解決能力や他者と協働する態度を育成します。



3

ペアやグループでの活動など対話的な学びを重視します

単なる“会話”ではなく、生徒自身が自己の考えを広げ深めるために、他者と意見を交換したり議論したりする“対話”の場面を重視します。



4

介護実習の学びを充実させ、質の高い専門的知識・技術の習得を目指します

福祉科の学びの中心は「介護実習」です。実習先と指導の目標を共有するなど密に連携することで、校内外の学びを循環させ、専門性に磨きをかけます。

5

地域を学びのフィールドとし、地域福祉の推進を目指します

私たちが生活する街には、社会福祉協議会や地域包括支援センター、病院など福祉・医療・介護に関する機関が多く存在しています。地域で活躍する専門職から直接指導していただいたり、生徒が学校を離れて地域の方と交流する機会を増やしたりするなど様々な活動を通して、古知野高校福祉科が地域福祉推進の担い手として地域の方に認めていただけるよう努めます。





アドミッション・ポリシー

(入学者の受け入れに関する方針)

数字で見る！古知野高校福祉科の魅力

700名以上の介護福祉士を輩出

古知野高校は、平成9年に福祉科を開設して以来、**25年**にわたり介護福祉士の養成を続けてきました。これまでに社会に輩出した介護福祉士の数は、**700名**を超え、多くの卒業生が、それぞれの職場や地域で介護分野のリーダーとして活躍しています。

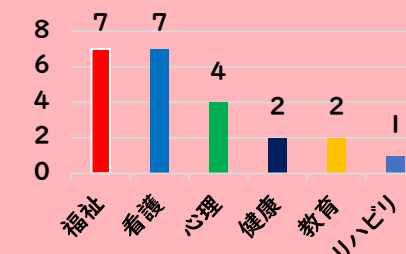
国試合格率**97.1%** (過去10年の平均)

過去10年間の介護福祉士国家試験平均合格率は**97.1%**を誇ります。また、そのうち、**6回**は合格率**100%**を達成しています。国家試験の難易度に左右されず、高い合格率を維持できるよう、福祉科教員は過去問題の分析・出題傾向の研究を行い、効果的な受験指導にあたっています。普段の授業では、タブレット端末や見守り支援システム(眠りSCAN)などのICT機器を活用し、生徒が主体的に学び、専門的な知識・技術を身に付けています。

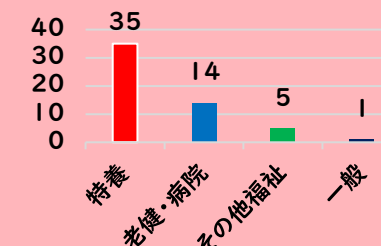
卒業後進路は、就職**5割**・進学**5割**

直近3か年の進路データによると、卒業生の内訳は、進学者**55名**、就職者**55名**と同数でした。生徒一人ひとりの希望に合わせた進路を実現しています。

(大学進学者の内訳)



(就職者の内訳)



1 福祉や介護に関心がある人

「福祉について詳しく知りたい」「介護の技術を身に付けたい」など、少しでも**福祉や介護に関心がある**人はぜひ、私たちと一緒に学びましょう。あなたの人生や生活を**豊かにする学び**が必ずあります。

2 自分と周りの人を大切にできる人

福祉を学ぶ上で、**相手を思いやる**ことは大切なことです。そのためには、まず自分自身のことを大切にしましょう。自分の**心や身体**を大切にできる人を歓迎します。



3 何事にも向上心を持ち一生懸命取り組める人

福祉科では、教科書やテキストを用いて学習する授業、介護技術の習得を目指して実技を实践する授業があり、授業で身に付けた知識・技術を発揮するために**52日間**の**介護実習**に臨みます。向上心を持ち目標達成のために取り組むことができる人はその分、学びが深くなり、人の何倍も成長することができます。

何事にも一生懸命取り組むことができる人を、私たちは求めています。

